

<p>ロンドンのタクシーはブラックキャブ、そのドライバーはキャビーと呼ばれている。キャビーは最短ルートで乗客を目的地まで運んでくれる。そうしなければ、警察に通報されて免許を奪われてしまうこともある。</p>
<p>去年の夏のある日、ロンドンでブラックキャブに乗る機会があった。ドライバーと私の間のガラスには、免許と緑のバッジが掲げられていた。私はそのバッジについて尋ねた。</p>
<p>「このバッジですか？これは、私がロンドンの全ての道を知っているという証明です。ですから、私は中心地から郊外まで、行きたいところならどこへでもお客様をお送りできますよ。」</p>
<p>「どうやって手に入れましたか？キャビーのための学校に通うのですか？」</p>
<p>「いいえ、自力で勉強するのですよ。ですが、難しいテストがあります。100人に6人しか合格することができません。」</p>
<p>「どうやってロンドンの全ての通りの名前を覚えたんです？あなたは非常に記憶力がいいのじゃないか？」</p>
<p>「私の場合、3か月間ロンドンをバイクで巡って、地区ごとに通りを覚えました。どこが一方通行の道なのかも覚えなければいけません。全て憶えたという自信がついたら、いよいよテストに申し込みます。まずは面接です。試験官はわざと失礼な態度で接してきますが、受験者は怒鳴られたり罵られたりしても落ち着いていなければなりません。キャビーはロンドンの全ての通りを覚えるだけではなく、どんなお客様にも対応できるスキルを身につけなければならないのです。もし試験官に怒ってしまったら、不合格です。」</p>
<p>「ロンドン全体を覚えるのにはどれほどの時間がかかりますか？」</p>
<p>「それは人によりますね。でも試験に受かった後も、全ての観光名所、劇場や美術館などの場所を覚えるための集中コースに一週間出席しなければなりません。そうして、ようやくドライブテストを受けることとなります。ですが、これも少し特殊です。乗り心地が悪くなるので急ブレーキは禁止されていますし、他のドライバーが何をしているのかも注意して見なくてはなりません。試験官は道の角や丘の上に停めさせるなど、受験者を騙して違反行為をさせようとしています。当然、試験官が何を言っても絶対に法律を破ってはいけません。試験に落ちてもいいのは一度きりです。もしも二回落ちてしまったら、一生キャビーになることはありません。」</p>